

李白が歌った土地の伝承に見る 独創的な「詩跡論」の魅力。



文学部国文学科教授
寺尾 剛

- 【学歴】
1982年3月 早稲田大学第一文学部卒業
1986年3月 早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了(文学修士取得)
1991年3月 早稲田大学大学院文学研究科博士課程満期退学
1988年9月 南京師範大学に高級進修生として1年間留学(～1989年8月)
- 【職歴】
1991年4月 早稲田大学非常勤講師
1993年4月 愛知淑徳大学文学部講師
1995年4月 愛知淑徳大学現代社会学部講師
1997年4月 愛知淑徳大学現代社会学部助教授
1998年4月 愛知淑徳大学文学研究科(兼任)
2002年4月 愛知淑徳大学文学部教授(現在に至る)

寺尾先生は中国政府奨学金留学生として滞在了南京を「第一のふるさと」と言うほどの中国好き。これまで50～60回も中国を訪ね、特に李白遺跡は中国人研究者より多く回っているそうです。

「李白は中国人の精神の柱。どう読み継がれて来たかを研究することは、中国人のものの考え方を知ることになる」と、斬新な切り口の「詩跡論」を学会で発表し、最近では中国の専門誌に翻訳されるまでに認知されてきました。

「詩跡論」では今後、北宋時代の詩人、王安石にも取り組む予定で、これからも中国語では続きそうです。

「個々の詩人の研究はもちろん大切ですが、究極的には、中国とはどんな国か、中国文学とはどんなものか、中国人の発想とは、など大きく捉えていくのが研究者の仕事だと思っています」と話していただきました。

私の専門分野は中国古典文学、特に漢詩です。漢詩と言っても幅広いですが、私の場合、唐や宋の時代の詩が中心で、主に唐の大詩人、李白を研究の中心に据えています。

そもそも私が漢詩、とりわけ李白の詩に関心を持つようになったのは、大学受験の頃、故・松浦友久早稲田大学教授の著になる『李白と詩と心象』(現代教養文庫)という本を読んでからでした。それまでは詩歌の鑑賞などというものは主観的なもので、客観的普遍的な研究などできなかったのではない、と勝手に思い込んでいましたので、この本は目から鱗の連続でした。文学研究とはここまで論理的、客観的に語ることでできる学問なのか、と心の底から驚きました。

この感動は実際に、大学・大学院と、松浦先生のもとで学び続けているあいだも変わりありませんでした。私の文学研究の柱は、この松浦先生の影響が大きいと思います。私は詩というものは、語彙レベル・文レベル・作品レベルのすべてが有機的に連動してはじめて優れた作品が生まれてくるものと考えております。従って詩語論・修辭論・詩型論を

組み合わせた形での詩歌分析法を確立することを研究目標の一つとしております。

今一つの研究課題は「詩跡論」です。簡単に言えば、日本の歌枕と考えて頂ければよいですが、中国の詩人は土地というものを非常に上手に歌う。そして読者もまたその詩人に歌われた土地を非常に大事にする。詩歌というものは詩人と各土地々々の読者が一緒になってはぐくんていくものなのだと言うことを私は中国に留学していた時に痛感致しました。詩歌と土地イメージとの関係については学界でもまだ端緒に就いたばかりの研究分野ですが、大変魅力的なテーマであると思います。ちなみにこの発想は南京師範大学の郁賢皓教授(イウケンゴウ)中国李白学会会長)のもとで学んでいた時に思いついたものです。

松浦先生、郁先生という日中を代表する二人の李白研究家のもとで薫陶を受けることができたこと、これが私にとって何にも代え難い最高の財産なのです。



著書紹介

Academic Library

著者自らが近刊を紹介します。



「看護研究のための文献検索ガイド 4版」

文学部教授 山崎茂明 (共著)

▼B5判/210ページ/日本看護協会出版会/2,200円/2005.7発行

▼信頼の高い文献情報を活用した看護実践を支援するための研究ガイド。1992年初版の改訂4版であり、情報環境の変化を受けた大幅な改定がなされ、デジタル情報資源や研究倫理への記載もなされた。



「障害をもつ人たちの自立生活とケアマネジメント ―IL概念とエンパワメントの視点から―」

医療福祉学部教授 谷口明広

▼A5版/220ページ/ミネルヴァ書房/2,800円(税別)/2005.10発行

▼障害をもつ人たちの自立生活概念が注目を浴びて20年余りが過ぎようとしているが、「自立」というものが障害者福祉の分野で論議されることや定義されることが少なかった。この著書では、障害をもつ人たちの「自立」を領域別に整理し、理論付けをすることができた。また、自己決定が本人の自立を可能にするものと仮定し、自己決定を支える支援を提示した。さらに、地域社会で障害をもつ人々を支援する障害者ケアマネジメントの重要性を解説している。



「リビング・ウィルのすすめ」

医療福祉学部教授 大野竜三

▼A5判/78ページ/エム アンド ディー・ラボ/1,000円/2005.3発行

▼家族や友に見守られ、安らかに最期を迎えたいと考える人が多い反面、医療現場では患者が望まない延命治療が日常的に行われている。意識が清明で理性的判断のできる内に、不必要な延命治療を選択しない意思表示を書面化するのが「リビング・ウィル」。その詳細な解説と書き方の指南。



「中日双方向による攻略法―中国語熟語760個」

外国語教育センター講師 曹志偉 (共著)

▼A5版/174ページ/晃洋書房/1,995円/2005.10発行

▼本書は学習者がいかに中国語熟語を効率よく習得する為に、今までと違う熟語の分類法を試みた。目的は熟語の難問を乗り越えさせる方法を提供すると同時に、中国文化への関心や理解を深めるという願いもある。また個人研究課題(文化と言語)の一つとして取り組んだものである。



「恍惚」

現代社会学部教授 山田登世子

▼四六版/170ページ/文芸春秋/1,500円/2005.9発行

▼ベルエポックのパリを舞台にした恋愛小説。ヴェネチア生まれのプリーツ・ドレスのモード論を書くつもりが転じて小説になりました・・・エロチックな。

【寺尾先生の最近の主要著作・論文リスト】

- 『続・校注唐詩解釈辞典〔付〕歴代詩』松浦友久編(共著)大修館書店 2001
 - 『李白と黄山～伝承の系列化をめぐる』(単著)『愛知淑徳大学論集～文学部・文学研究科篇』(第27号) 2002
 - 『李白流夜郎伝承考～『詩跡』拡散の要因をめぐる』(単著)中国詩文研究会編『中国詩文論叢』(第21集) 2002
 - 『関於中国『詩歌古跡』研究的意義』(単著、劉維治訳)武漢大学文学院・長江文芸出版社編『長江學術』(第5輯)長江文芸出版社 2003
 - 『李白与九華山詩歌古跡化』(単著、劉維治訳)新疆師範大学学報編集部編『新疆師範大学学報』(2003年第2期) 2003
- 〈一般向け〉
- 『漢詩ワールド再発見』(単著)藤樹社刊『書道界』にて2004年10月号より連載中